

2026年度認定こども園のぞみこども園事業計画

1. キリスト教保育の充実

★神様と人々に愛されていることを感謝する子ども

★よく考え豊に感じのびのび表現できる子ども

★それぞれの違いを認めあい思いやりの心を養い希望をもって生きる子ども

上記3つの理念を念頭に、それぞれの発達段階に応じたキリスト教保育を実践していく。こども礼拝を通して、月の聖句や讃美歌、聖書の話しに親しむ環境を整える。また機会を捉えて教職員は諸研修会に参加し、一人一人が課題意識を持って保育に励んでいくことで、さらなる充実を図っていく。

2. 「保育の質」と「業務改善」の両立をめざす。

①業務の内容や、書類の種類・様式などを見直し業務改善を図る。単に業務を減らすのではなく、より質の高い保育を行うために必要なことを精査しながら進めることに留意する。

②「保育の質」の向上を目指し、諸研修会への参加や職員間での学びの機会を充実させる。

③学園評価・市監査の指摘事項を検証して取り組んだり、保護者に向けての保育内容の発信や、行事後の保育者アンケート等を通じて評価や見直しを行ったりすることで「保育の質」の向上を目指す。

④不適切保育やハラスメント防止のため、一人一人が人権感覚を養い、法令・規則遵守の意識を守って職務にあたることができるよう、諸研修会への参加や、チェックリストを用いた振り返り等を行う。

3. 特色ある教育に努める

①菜園（借地・三田農林株式会社）で野菜・花等を楽しむ。幼児期より食の大切さを知り、作物をつくる喜びを味わう。

②体育専門講師による身体を動かす喜びを経験する。

通常保育に出来ない身体を思いっきり使った運動をし、身体能力の向上と共に身心の健康を大切にすることを育てる。

③老人福祉施設訪問（年長児）

老人福祉施設の敬老会等への参加をし、高齢者との交流を通して豊かな成長を促す。

④架け橋プログラムの積極的推進

幼保小連携会への積極的な参加や、交流会の開催を通し、小学校とのスムーズな接続を目指す。小学校との連携をもう一段踏み込み、アプローチカリキュラムの作成を目指す。

4. 教育・保育と人事の交流

①教育・保育 質を高めるために、過去の自己評価項目を精査し、互いに成長できるよう研鑽を積む。学園評価・市監査の指摘事項を検証して取り組む。特に非認知能力を伸ばすための研修等により「生き抜く力」を子ども達が得られるよう援助する。

②人事 盛岡市内4園の交流を深め、教頭や主幹などの学び合いに加え4園の園長も加わる会議・研修の充実を図る。市内4園間の異動・出向も視野に入れ風通しの良い関係性を持続する。

③職員の育成 次世代のリーダーを育成するため、職員会議のやり方を一新し、それぞれのクラスでの保育について発題する時間を持ち、園全体で分かち合い励まし合う。保育者がチームとして支え合い、園児・保護者に質の良い、子どもを真ん中にした保育を展開することを目指す。

5. 園の特質を活かしたあり方を模索する

①教職員のキリスト教保育への取り組みの第一歩である礼拝生活の拡充への取り組みをする。キリスト教行事を充実し、新しい賛美なども取り入れるなど、教職員の意識を向上させる。毎月職員に向けて聖書の学びの時間を設ける。

②学童保育開設9年目にあたり、さらに児童・保護者の必要に寄り添うため保育環境を整える。

③子育て支援の充実を図り、市内4園協力し地域の未就園児家庭の支援をする。

④子どもの好奇心を伸ばす、園庭環境・室内環境の充実を図るため、教職員が他園を見学し子どもにとってよりよい環境を提供できるように職員同士研究の時を作る。